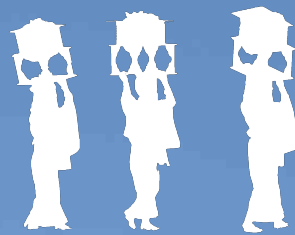


心に刻まれる、 阿蘇のおんだ。



「阿蘇の農耕祭事」の一つおんだ祭（御田植神幸式）は、阿蘇大明神が阿蘇開拓と農耕の道を広めた神徳をたたえ年々の豊作を願う祭で、古くから脈々と受け継がれている伝統的な祭祀です。

中でも、白装束の宇奈利や神輿、田植え人形などが神幸行列をなして青々しい田園を巡るようすは幻想的で、阿蘇を象徴する情景として人々の心に深く刻まれます。

御田植神幸式

通称を「おんだ祭」と言い、阿蘇神社及び国造神社の年中行事の中では最大の祭事。神様がお乗りになられた4基の神輿を中心に、約200人の行列が青田の中を練り歩きます。

この時期の稲の育ち具合を神様にご覧いただくことで、秋の豊作を祈願するものです。

御田植神幸式というものの、実際に田植えを行うものではなく、2カ所の御仮屋と帰着後の神社で、神輿に向かって稲を投げかける行為を「田植え」と称します。その稲が神輿にたくさん乗れば豊作になると伝えられています。

●阿蘇の農耕祭事 阿蘇神社及び国造神社を中心として、神職、社家、町の人びとによって行われる農耕祭事です。

四季を通じて収穫祈願から豊作感謝、風害、霜害の防除まで一貫した祭事が行われる地域は現在ほとんどみられず、我が国の農耕生活の推移、庶民信仰の姿を知りうる最も典型的な事例として重要であるとして、昭和57年1月14日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

(参考：文化庁ホームページ)





心に刻まれる、阿蘇のおんだ。

おんだ祭は、国造神社と阿蘇神社でそれぞれ7月26日、28日に行われます。昔は旧暦の6月26日に行われ、阿蘇神社の縁起によると、孝霊天皇が勅祭をされた日とされており、藩政時代には細川侯の名代が参向する唯一の祭りとして残っています。阿蘇の人たちにとって、おんだ祭は最も重要な祭典の一つとなっています。

これまで、脈々と受け継がれてきたこの祭りは、地元住民を中心として、子どもから大人まで、それぞれが役割を担い継承されてきました。神幸行列の構成は人数や役割が細かく決まっております。白装束に身を包んだ宇奈利や神輿を担ぐ駕輿丁、田植え人形などさまざまな役割、おんだ祭の最大の魅力ともいえます。

おんだ祭は年々の豊作を祈る祭りですが、神輿をくぐれば無病息災が叶うともいわれ、この光景は阿蘇地方でよく見られるとのこと。おんだ祭は観覧して楽しむだけでなく参加することもできる祭りなのです。

今回は、7月28日に行われた阿蘇神社おんだ祭に密着し、フォトレポートをお届けします。地域に伝わる伝統的な祭りを身近に感じてほしい、阿蘇の祭事を後世に継承していきましょう。

参考文献（一部引用）：一の宮町史「神々と祭りの姿：阿蘇神社と国造神社を中心に」／著者 佐藤征子
文化財一の宮／一の宮町教育委員会

神幸行列、それぞれの役割



たう にんぎょう
田植え人形

田男、田女、作牛の3体をそれぞれ一人ずつ持つ。田男は西区、田女は塩塚区、作牛は東区の小学生が持つ役を務めている。行列に参加するだけで、特別の所作は行わない。



かよちよう
駕輿丁

神輿は全部で4基。各神輿を10人の駕輿丁が担ぎ駕輿丁頭が一人ずつつく。江戸時代以来、宮地地区の人が担当する。



う なり
宇奈利

白衣を着て白布で顔を覆い、頭に懸盤を載せて飯櫃を置く。宇奈利は14人で、阿蘇十二神と火の神と水の神を合わせた十四の神々の食事を運ぶ役目。



し し
獅子

獅子の役は合計16人で、雄獅子と雌獅子に分かれる。阿蘇地区の行政区が4年交代で担当し、中世以来の役割を現在も踏襲している。



でんがく
田楽

田の神を下すためではないかといわれている田楽は、小太鼓、胴拍子を宮地地区の小学生それぞれ2人が担当する。太鼓は大人が担当する。緑の上衣に紫の袴を着て、花笠をかぶる。



さおとめ
早乙女

2人の早乙女が馬に乗って参列する。東区と北区の小学生が担当し、花笠をかぶって、緑の上衣に緋色の袴をつける。中世には15人の早乙女が馬に乗って神幸行列に加わったとされる。

※このほかにも、天狗に似た猿田彦や五色絹、鷹、馬引きなどが神幸行列に参列する。



ONDA PHOTO REPORTS おんだ祭フォトレポート

御田祭



1. 雄獅子を担当する小倉地区の皆さん。「ヤーホイ、サーホイ」の掛け声が門前町に響く。 2. 御仮屋に立てかけられた田女、田男、作牛。 3. 馬にまたがり早乙女を務める女の子。不安な表情を見せながらも最後まで乗り切った。 4. 多くのカメラマンに囲まれ即席撮影会。 5. 祭りの終盤、神輿に投げ入れられる稲。神輿に乗る稲が多いと豊作になるとか。ことしもたくさんの稲が投げ入れられ、豊作が期待できそうだ。駕輿丁も疲れを振り切り懸命に神輿を担いだ。





8



7



6



9

6. 門前町を練り歩く宇奈利。緑生い茂る街なかに白装束が際立つ。 7. それぞれ決まった場所で御田歌を謡う駕輿丁の皆さん。カタカナで書かれた歌詞をゆっくりと謡う。 8. 神輿の下をくぐる浴衣姿の女の子。往復すると無病息災が叶うといわれている。 9. おんだ祭の神幸行列が描かれた壁画の前を通る神輿。壁画は平成24年に崇城大学芸術学部の学生が描いたもの。 10. 青田を前に宇奈利を撮影できる一番の撮影スポット。田んぼの畔にアマチュアカメラマンがズラリ。 11. 4kgほどの飯櫃を持ち休憩を挟みながら神幸行列に臨む。 12. 賑やかな出店が並ぶ参道に、子どもたちも目を奪われがちに。



11



10



12